

# ふれあい

2024

3

No.444

牛久愛和総合病院 広報誌



## 能登半島地震に伴う DMAT 出動について

救急医療科 医長 矢口 慎也



本年1月1日午後4時10分頃に発生した能登半島地震にあたり、当院では初のDMAT (Disaster Medical Assistance Team) : 災害派遣医療チーム)として現地で活動して参りましたのでご報告させていただきます。

今回、私達は石川県から厚生労働省、茨城県を通じて、1月5日に派遣要請を受け、医師1名、看護師2名、業務調整員3名(リハビリ2名、薬剤師1名)の計6名で、普段はドクターカーとして使用している病院救急車で出動しました。

1月5日21時に病院を出発

して長野県内で宿泊後、1月6日16時頃に参集拠点の能登総合病院(七尾市)に到着しました。院内も水洗トイレは使用できませんでしたが手洗いの水は流れず、持ち込んだ水道水やペットボトルの水を使用していました。

DMATの活動は大きく分けて災害現場や医療機関での診療を行う「現場活動」と、物資・人員の配置の決定や関係機関との調整を行う「本部活動」があります。今回、私達は本部活動を担当することとなり、当日の当直業務を命じられました。本部にも日中は10数隊のDMATがいますが夜間は1隊となり、不慣れながらも派遣先の各隊からの電話対応を行い、パイプ椅子を並べて仮眠しました。

1月7日7時半から朝のミーティングがあり、当日の活動方針などについて情報共有を行った後、各部署に配置されました。

私達はDMAT指揮の担当となり、全国から参集するDMATに対して統括DMATの資格や救急車・パソコンの有無、

チーム構成などから、珠洲市や輪島市などの医療機関や高齢者施設、避難所での現場活動か本部活動の割り振りを行いました。

各隊、数日単位での活動となり、1日30隊前後(当時の時点でのべ200隊強)のDMATが参集するため、看護師が受付業務を行い、記入票の内容に従い、派遣先を決定しました。

業務調整員は時系列に情報をまとめた表(クロノロジー)の作成を行うと同時に各隊への指示書の作成のほか、他部署と連携して物資や人員配置の優先順位を検討するなどの作業を担当して行いました。

業務内容が多岐にわたるため複数のチームで作業を行い、また時間経過により対処すべき内容も変化するため、コミュニケーションを取りながら臨機応変に対応することが必要です。災害時でもあり非常にストレスの高い環境でしたが、メンバー各自が与えられた業務を的確に対応する姿には感銘を受け、とても勇気づけられました。

午後には七尾市内から金沢市内の病院への妊婦の転院搬送も担当し、後日無事に出産されたと同じ大変嬉しく思いました。

17時のミーティングで当日の振り返りを行った後、高速道路で1時間離れた金沢市内に移動して宿泊しましたが、日ごろ当たり前の入浴やベッドで眠れるありがたさを改めて感じました。

1月8日は朝のミーティングに合わせて、6時半に宿を出発して、前日と同様の業務を担当しました。夕方に本部に撤収を伝え、長野県内で宿泊後、1月9日昼頃に無事帰院しました。帰院時には同僚に温かく迎えてもらい、疲れも一気に吹き飛びました。

今回は現場活動ではなく、実際に自分の目で被災地の状況を確認することはできませんでしたが、本部活動を通じてDMAT活動の全体像を把握することができたことは貴重な経験になりました。

また、当院のスタッフにもご

負担をお掛けすることとなりましたが、院長はじめ各職種や事務の皆様の温かいサポートのおかげで、無事に任務を果たすことができましたことを心より感謝申し上げます。

今回の震災では家屋の倒壊などにより200名以上がお亡くなりになり、今も避難生活など不自由を余儀なくされている方々が多くいらつしゃいます。被災地で働く医療者もまた被災者であり、直接的な活動ではありませんでしたが、少しでも被災地の方々のお役に立てたなら幸いです。

復旧・復興には長い道のりで、息の長い支援が必要と思われれます。同時に今後想定される南海トラフ地震や首都直下地震では自分達が被災者になる可能性も十分あります。

「災害は忘れた頃にやってくる」と言われるように、平時からの備えが大変重要です。皆様も今回の震災を機に災害への備えを再確認して頂き、来るべき災害を一緒に乗り越えて行きましょう。

### 春秋園だより

日差しが春のおとずれを告げる頃となりました。

今回は、春秋園のお食事についてお伝えしたいと思います。

春秋園の献立は、利用者様の身体の状態に合わせて、エネルギーのコントロール、塩分や食料の制限、嚥下機能に合わせた形態、など管理しながら、管理栄養士が考案しています。その際、栄養面だけではなく配慮していることが『季節感を取り入れる』ことです。コロナ禍で外出する事もままならない状態の日常に、食から少しでも楽しみや季節を感じていただければと、季節の行事に合わせて、旬の食材を使用する他、旧暦からの意味・成り立ち等も考えながら、献立を作成、調理、盛り付けを行っています。



例年の春の献立を二部紹介します。

節分では魔除けのイ

ワシを柔らかく胡麻味で

甘露煮風に

炊いたものや、豆まきをイメージした甘納豆を提供いたしました。

桃の節句は、筍の炊き合わせでした。筍は繊維が多いため、咀嚼力の弱い方でも食べやすい様に柔らかい食材を選定して調理しています。

花便りが聞こえるころには、桜御膳です。ちらし寿司の中には桜の花が香りづけに入っています。花形にし、食用の桜の花を飾ることで、見た目や香りで、春の訪れやお花見気分を味わっていただきました。

利用者様からも行事食は好評で「おいしかったよ」と、お声掛けいただける事もあり、何よりの励みとなっております。私たちは、食事を通して、利用者様の心身の健康を保てるよう、支援していきたいと思えます。

(春秋園 栄養科職員一同)



### 入職者

- ①担当 ②専門とその紹介 ③出身大学
- ④趣味 ⑤生年月日 ⑥血液型 ⑦星座



2/16付入職  
健診センター  
中野基一郎

- ①月～金曜日 午前・午後
- ②乳腺・甲状腺疾患
- ③徳島大学 ⑤昭和47年8月14日 51歳

2月1日付

#### ■看護部

看護助手 神尾 里美

一日も早く患者様や職員の皆様さんのお役に立てる様、笑顔で一生涯懸命励んで参ります。

#### ■救急救命士科準備室

救急救命士 高須 明倫

救急救命士として、救急医療に少しでも貢献できるように努めます。

#### ■情報システム管理室

事務 大野 友之

絵を描くこと、読書、運動が趣味です。新しい場に早く慣れるよう尽力致します。

ホームページアドレス <http://www.jojinkai.com>



# 大規模災害時の歯科の役割

歯科口腔外科 部長 河地 誉



日本は有数の自然災害大国であり、現在までに多くの災害を経験しています。災害の特性により、医療のニーズは異なりますが、過去の災害から課題を見つけ、改善を積み重ね、基本的な知識に加え、有事の際には反射的に動けるよう事前の計画と体制の確保等、訓練し意識付けするといった備えが重要です。有事の際に、歯科医療従事者に求められるのは、**[1]歯科保健医療支援活動**（口腔の健康維持を推進すること）、**[2]災害犠牲者の身元確認**（身元不明のご遺体の歯科所見から身元確認を行う）です。

大規模災害時の歯科保健医療支援活動は、発災後の時間的経過により異なります。

- ① フェイズ1（48時間以内）…口腔顎顔面外傷への対応）応急処置、後方支援病院への搬送
- ② フェイズ2（数週間以内）…応急（緊急）歯科診療）救護所開設、避難所等の巡回診療（巡回口腔ケア・口腔衛生指導）
- ③ フェイズ3（被災後数か月から数年）…（中期的な避難者ケ

ア）災害関連疾病の予防、口腔ケア、地域口腔保健の再構築

過去の災害における歯科保健医療支援活動は、1993年7月北海道南西沖地震において、避難時に義歯を紛失した53名に対して義歯を作製したことが報告されています。1995年1月阪神・淡路大震災では、仮設診療所が設立され応急歯科診療が行われました。その時に、災害による直接的な被害ではなく、避難途中や避難後に災害と因果関係が認められる「災害関連死」という概念が生まれました。災害関連死とは、処方薬が摂取できなかったことによる持病の悪化、車中泊などの静脈血栓症（エコノミークラス症候群）等がありますが、歯科に関連する疾患では、誤嚥性肺炎<sup>1)</sup>があります。長期の避難生活で体力が低下して飲み込む力が弱まると、食べ物や唾液を誤嚥（食道ではなく気管に入ってしまう）することにより、増殖した口腔内細菌が気管に侵入し、炎症を起こして発症します。口腔内の状態と肺炎と関連があり、その予防には、歯科医師、歯科

衛生士による専門的な口腔衛生指導、口腔ケアが重要となりま

す。また、「義歯を紛失した高齢者が差し入れのおむすびを食べられない」、「断水のため義歯を洗うことができない」、「慣れない集団生活において人前で義歯を外すことに抵抗がある」など、義歯に関する問題は時間の経過とともに深刻になっていきます。また、ボランティアの中には、「他人の義歯は気持ち悪くて洗えない」という意見が挙がるなど、歯科保健のニーズは見えにくく、デリケートな問題である可能性が示唆されました。歯の紛失が原因とした摂食困難からの脱水死や口腔内不潔からの誤嚥性肺炎の増加など、歯科医療関係者にとって多くの課題を与えられた震災であったといわれています。2004年10月新潟県中越地震、2007年7月新潟県中越沖地震では、避難所巡回口腔ケアや口腔衛生啓発活動が行われるようになりました。2011年3月東日本大震災においては、災害が甚大かつ広域であったことから、急性期の救急医療対応だけでなく、慢性期の避難所での保険医療、公衆衛生への対応の必要性が指摘されました。2016年4月熊本地震においては、歯科だけでなく、多職種連携の重要性が認識されました。

日本歯科医師会では、災害歯科医療対策として、2022年3月2日に日本災害歯科保健医療連絡協議会が創設されました。災害発生後おおむね72時間以降に地域歯科保健医療専門職により行われる、緊急災害歯科医療や避難所等における口腔衛生を

中心とした公衆衛生活動を支援することを通じて被災者の健康を守り、地域歯科医療の復旧を支援すること等を目的としてJDAT（Japan Dental Alliance Team：日本災害歯科支援チーム）ができ、災害時の歯科支援の中心的な存在になることが期待されています。

として知られています。過去には、犯罪捜査で有用性が報告されましたが、大規模災害時の介入事例としては、1985年8月日本航空123便墜落事故、1994年4月中華航空140便墜落事故、1995年1月阪神・淡路大震災、2005年4月JR福知山線脱線事故、2001年9月アメリカ同時多発テロ、2004年12月 スマトラ島沖地震、2011年3月 東日本大震災などがあります。国内では、警察等が取り扱う死体の死因又は身元の調査等に関する法律（第4条、8条）に基づき、警察からの協力要請の下、ご遺体を検査し歯科所見と生前資料の照合を行い、身元確認を行います。

2024年初には、令和6年能登半島地震が発生しました。直ぐに日本歯科医師会に災害対策本部が設置され、被災地にはJDATが派遣されています。被災された皆様ならびにご家族の皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、被災地にお住いの皆様におかれましては、多くの方が不安な日々をお過ごしになられていることとお察し致します。一日も早い安定化と、被災地の復旧を心よりお祈り申し上げます。

（参考資料…日本歯科医師会の災害歯科医療対策について）  
ご遺体の個人識別（身元を特定）する方法は、歯科所見、指掌紋、DNA型などがあります。歯科所見による身元確認は、災害医療の中で歯科のみが担える特異的な分野です。歯は人間の身体の中で、最も高度に優れ、高温にも耐えうる組織です。全ての歯の状態が近似していることは、極めて稀であるため、有効な方法

として知られています。過去には、犯罪捜査で有用性が報告されましたが、大規模災害時の介入事例としては、1985年8月日本航空123便墜落事故、1994年4月中華航空140便墜落事故、1995年1月阪神・淡路大震災、2005年4月JR福知山線脱線事故、2001年9月アメリカ同時多発テロ、2004年12月 スマトラ島沖地震、2011年3月 東日本大震災などがあります。国内では、警察等が取り扱う死体の死因又は身元の調査等に関する法律（第4条、8条）に基づき、警察からの協力要請の下、ご遺体を検査し歯科所見と生前資料の照合を行い、身元確認を行います。

《出来事ピックアップ》

節分

2/2

2月2日(金) 節分を行いました。年長児は、ホールを掃除したり、豆を炒ったり、鰯を焼いたりして鬼を迎える準備をしました。小さい子達は、台所から鰯の匂いがして来て、興味津々に覗いていました。

昼食で焼いた鰯を食べて、集会が始まりました。年長児が神棚へお供え物をして、豆まきの歌を歌っていると、遠くからドーンドーンと太鼓の音が聞こえて来ました。鬼がこちらへやって来ます。怖くってお母さんにしがみついて泣く子もいましたが、鬼の舞を見て少し落ちつきました。そ



れから、鬼との約束事をして豆まきをしました。とても大きな声で「鬼は外!!」と何度も言って豆を投げると、鬼は逃げて行きました。そして保育園に春が来ました。

(保育課係長…榊原)

編集だより

日増しに暖かくなり、桜の開花が待ち遠しい今日この頃、皆様いかがお過ごしですか。4月からの新生活に向けて、ドキドキワクワクまたは不安を感じている方もいるでしょうか。

季節の変わり目は特に栄養・休息をしっかり取って、上手に乗り切りましょう。(E・N)

病院理念

我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様に最高の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

病院概要

病床数 489床 (一般391床 医療療養型55床 地域包括ケア43床)

施設

敷地 59,449.60㎡ 駐車場 1151台



診療科目

【一般外来】

内科、消化器内科、循環器内科、心臓血管外科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、小児科、眼科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、形成外科、救急科、外科、乳腺外科、消化器外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、歯科口腔外科、甲状腺・内分泌外科、血管内治療科

【専門外来】

内科(禁煙外来)
整形外科(股関節、脊椎、スポーツ、肩関節、膝関節)
小児科(小児循環器、小児心理、小児免疫)
皮膚科(レーザー外来)
外科(下肢静脈瘤外来)
ストーマ外来
そけいヘルニア専門外来
透析外来
内視鏡検査
検診検査(乳がん検診)

日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 常仁会

救急24時間

牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地
Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031
ホームページ http://www.jojinkai.com

《関連施設》

- 総合健診センター Tel 029-873-4334
健康増進施設 スポーツリラックス Tel 029-874-8791
人工透析センター
読影センター
地域リハ・ステーション
介護老人保健施設 春秋園 Tel 029-870-3100
ひたち野ステーションクリニック Tel 029-896-6200
特別養護老人ホーム グランヴィラ牛久 Tel 029-817-5111

